

札幌医科大学保健医療学部棟改修計画

平成28年3月

札幌医科大学

目 次

1	はじめに	
2	改修計画策定の背景と目的	
	(1) 大学の沿革	1
	(2) 施設整備について	2
3	保健医療学部棟の改修について	
	(1) 保健医療学部棟の現況	7
	(2) 改修の基本方針	8
	(3) 主な改修の内容	8
	(4) 現行法令適合のための改修	13
	(5) 概算事業費	15
4	改修の進め方及びスケジュール	
	(1) 進め方	16
	(2) スケジュール	16
5	キャンパス整備に関する現状と課題	
	(1) 病院と大学の連絡通路	17
	(2) 附属病院駐車場の狭隘化解消	18
	(3) 病院の整備について	18
	(4) 助産学専攻科棟などについて	18
	【参考】主要施設の現況	19

(参考資料編)

- 1 札幌医科大学施設整備構想
- 2 札幌医科大学附属病院増築計画
- 3 教育研究施設Ⅲ基本設計(概要)
- 4 学内施設配置図

1 はじめに

保健医療学部は、看護学科・理学療法学科・作業療法学科の3学科からなる日本初の医療系学部として、平成5年にそれまでの3年制短期大学から4年制大学となり、「人々が健康に暮らせる社会の実現」を目的に専門性を発揮することにより広く社会に貢献すると共に、優れた医療人を輩出し続けてきた。

今後とも北海道の地域医療を守り支える専門職や保健・医療を探究する研究者を育成するためには、教員や学生、さらに大学と共同研究を行う企業の研究者など多くの関係者にとって活動しやすい教育研究環境の充実、さらには、利用者の満足度の向上など、魅力あるキャンパスづくりが求められている。

こうした中、現在の保健医療学部棟は、昭和58年の札幌医科大学衛生短期大学部として建設されたものであり、平成5年の保健医療学部（4年制）への発展的改組や平成10年の大学院の設置に伴い、定員は建設当時と比べ1.6倍を超える状況にまで増加しており、施設の狭隘化が著しいことから、平成24年3月に北海道が策定した「札幌医科大学施設整備構想」（以下「整備構想」という。）に基づいて、学生・教員数に見合った適切なスペースの確保が必要となっている。

また、現在建設中の教育研究施設Ⅲは、保健医療学部棟の増築棟として、一体的な活用を考慮した上で基本設計が行われており、施設機能を十分に発揮し、質の高い教育環境の確保を図るためには、改修が不可欠となっている。

建物の現状を総合的に把握し改修をより円滑に進めるため、保健医療学部棟改修計画（以下「改修計画」という。）を策定する。

2 改修計画策定の背景と目的

（1）大学の沿革

札幌医科大学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。

その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。

この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。

平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。

平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

平成23年4月には研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置し、また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。

平成26年4月には、医学部及び保健医療学部の入学者選抜の円滑な実施や選抜方法の改善、オープンキャンパスや模擬講義等の入学者に対する広報の充実に目的にアドミッションセンターを開設した。

年 代	主 な で き ご と
昭和25年 2月20日	札幌医科大学設置認可（学生入学定員40人）
昭和25年 4月 1日	開学
昭和28年 3月31日	学生入学定員を60人に増員
昭和30年 9月 1日	附属研究機関として、がん研究所設置
昭和31年 3月31日	大学院医学研究科の設置認可（学生入学定員25人）
昭和37年12月20日	学部学生の入学定員を80人に増員
昭和49年 1月23日	学部学生の入学定員を100人に増員
昭和57年 5月16日	動物実験施設部設置
昭和58年 6月23日	附属病院等整備第1期工事（病棟・中央診療棟）竣工
昭和60年 6月20日	附属病院等整備第2期工事（外来診療棟）竣工
昭和61年 3月13日	附属病院等整備第2期工事（臨床教育研究棟）竣工
平成 5年 4月 1日	保健医療学部（入学定員90名）開設 （看護学科、理学療法学科、作業療法学科）
平成10年 4月 1日	大学院保健医療学研究科（入学定員24名）開設 （看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻）
平成11年 3月28日	基礎医学研究棟竣工
平成12年 4月 1日	大学院保健医療学研究科理学療法学科・作業療法学専攻博士課程後期（入学定員6名）開設
平成13年 4月 1日	大学院医学研究科を再編整備 （地域医療人間総合医学講座、分子・器官制御医学専攻、情報伝達制御医学専攻の3専攻へ）
平成18年 4月 1日	附属総合情報センター設置（附属図書館、附属情報センターの統合組織） 附属産学・地域連携センター設置
平成19年 4月 1日	地方独立行政法人化 「北海道公立大学法人 札幌医科大学」
平成20年 4月 1日	医学部学生入学定員105名に増員 大学院医学研究科修士課程（入学定員10名）を開設（医学専攻科）
平成20年10月 1日	医療人育成センター開設
平成21年 4月 1日	医学部学生入学定員110名に増員
平成23年 4月 1日	医学部附属研究所等の再編統合により、医学部附属フロンティア医学研究所を設置
平成24年 4月 1日	助産学専攻科（入学定員20名）開設

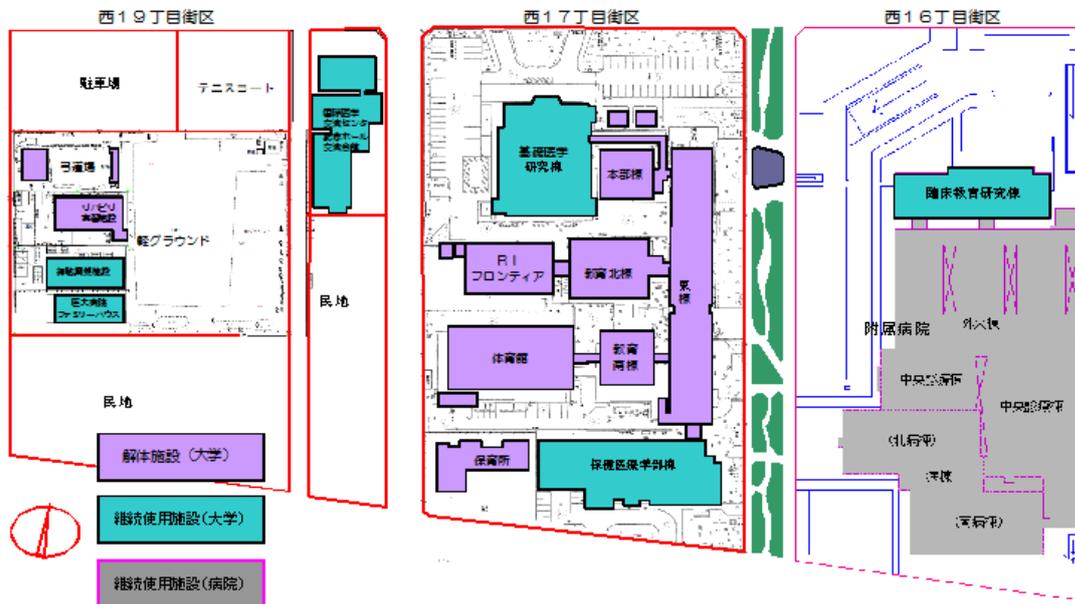
（2）施設整備について

大学キャンパスの整備については、「整備構想」に基づき、教育研究施設Ⅰ及び教育研究施設Ⅲ、リハビリテーション実習施設、体育館等の整備を行っている。

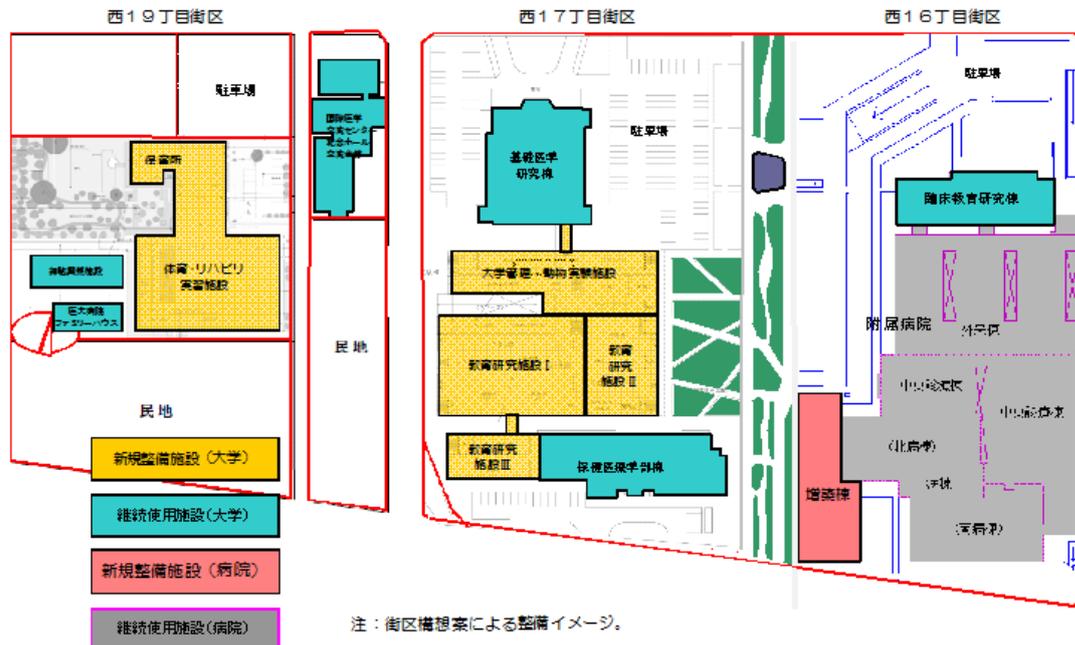
「整備構想」においては、教育・研究機能の充実強化に向けて、教員・学生数に見合った適切なスペースの確保を目指しているが、保健医療学部棟は、建設時（S58）の収容定員270名（3年制）が、保健医療学部開設（4年制）や大学院の設置に伴い、現定員は452名（+182名、1.6倍超）となったため、施設が著しく狭隘化し、学生に多大な負担を強いている現状にある。

また、教育研究施設Ⅲについては、保健医療学部棟の改修を見据え、両施設の一体的な使用を考慮した上で基本設計されており、施設機能を発揮させるために必要不可欠かつ必要最小限の既存棟改修が完了することにより、「整備構想」で規定する質の高い教育環境の確保を図る。

整備開始前



施設整備後



年度	検討内容																																					
H22	<p>「札幌医科大学の施設整備のあり方について」策定 ○施設の整備場所や規模による事業費の概算や整備手法の課題を整理</p>																																					
H23	<p>「札幌医科大学施設整備構想」策定 ○「施設整備のあり方」に機能や整備内容の検討を加え、基本的構想を取りまとめたもの ＜施設の現状と課題＞</p> <table border="1"> <tr> <td>土地</td> <td>都心に位置するが道路を隔て敷地が分断→大学キャンパスとして一体感がない</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>＜教育施設＞主な施設は耐用年数が到来し、狭隘化により定員増にも対応できない。 ＜附属病院＞狭隘化しており、高度先進医療に対応するための機能拡充が困難。</td> </tr> </table> <p>＜大学における課題＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特色ある教育</td> <td>①教育方法の変革：新たな教育方法に対応する施設整備(講義中心→臨床技能教育など) ②国家試験合格率：学生が自主的に勉学できる学習環境の整備 ③研究機能の充実：研究・研究支援機能の充実(先端的研究成果を臨床研究へ応用など)</td> </tr> <tr> <td>地域医療への貢献</td> <td>①医師不足：医師の養成数を増やすための学生定員増に対応した校舎整備 ②医師派遣機能：臨床研修医を確保するため、臨床技能教育に必要な施設の整備</td> </tr> <tr> <td>病院の機能強化</td> <td>①医療ニーズ：診療機能の拡充(がん拠点病院、高度救命救急センターなど) ②プライバシー：患者アメニティの向上(病室の4床化、個室化)</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜教育研究施設の整備＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>面積</th> <th>施設</th> <th>面積</th> <th>整備内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現有施設</td> <td>20,001㎡</td> <td>新キャンパス</td> <td>40,500㎡</td> <td>《収容定員》 ①医学部定員125名</td> </tr> <tr> <td>継続使用施設</td> <td>46,604㎡</td> <td>継続使用施設</td> <td>46,604㎡</td> <td>②助産学専攻科定員20名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>66,605㎡</td> <td>合計</td> <td>87,104㎡</td> <td>《概算事業費》 180億円</td> </tr> </tbody> </table>	土地	都心に位置するが道路を隔て敷地が分断→大学キャンパスとして一体感がない	建物	＜教育施設＞主な施設は耐用年数が到来し、狭隘化により定員増にも対応できない。 ＜附属病院＞狭隘化しており、高度先進医療に対応するための機能拡充が困難。	区分	課題	特色ある教育	①教育方法の変革：新たな教育方法に対応する施設整備(講義中心→臨床技能教育など) ②国家試験合格率：学生が自主的に勉学できる学習環境の整備 ③研究機能の充実：研究・研究支援機能の充実(先端的研究成果を臨床研究へ応用など)	地域医療への貢献	①医師不足：医師の養成数を増やすための学生定員増に対応した校舎整備 ②医師派遣機能：臨床研修医を確保するため、臨床技能教育に必要な施設の整備	病院の機能強化	①医療ニーズ：診療機能の拡充(がん拠点病院、高度救命救急センターなど) ②プライバシー：患者アメニティの向上(病室の4床化、個室化)	施設	面積	施設	面積	整備内容	現有施設	20,001㎡	新キャンパス	40,500㎡	《収容定員》 ①医学部定員125名	継続使用施設	46,604㎡	継続使用施設	46,604㎡	②助産学専攻科定員20名	合計	66,605㎡	合計	87,104㎡	《概算事業費》 180億円					
土地	都心に位置するが道路を隔て敷地が分断→大学キャンパスとして一体感がない																																					
建物	＜教育施設＞主な施設は耐用年数が到来し、狭隘化により定員増にも対応できない。 ＜附属病院＞狭隘化しており、高度先進医療に対応するための機能拡充が困難。																																					
区分	課題																																					
特色ある教育	①教育方法の変革：新たな教育方法に対応する施設整備(講義中心→臨床技能教育など) ②国家試験合格率：学生が自主的に勉学できる学習環境の整備 ③研究機能の充実：研究・研究支援機能の充実(先端的研究成果を臨床研究へ応用など)																																					
地域医療への貢献	①医師不足：医師の養成数を増やすための学生定員増に対応した校舎整備 ②医師派遣機能：臨床研修医を確保するため、臨床技能教育に必要な施設の整備																																					
病院の機能強化	①医療ニーズ：診療機能の拡充(がん拠点病院、高度救命救急センターなど) ②プライバシー：患者アメニティの向上(病室の4床化、個室化)																																					
施設	面積	施設	面積	整備内容																																		
現有施設	20,001㎡	新キャンパス	40,500㎡	《収容定員》 ①医学部定員125名																																		
継続使用施設	46,604㎡	継続使用施設	46,604㎡	②助産学専攻科定員20名																																		
合計	66,605㎡	合計	87,104㎡	《概算事業費》 180億円																																		
H24	<p>西19丁目街区施設(体育館、リハビリテーション実習施設及び保育所)基本設計/実施設計 西17丁目街区構想及び教育研究施設Ⅰ基本設計 ①大学のシンボルとなるキャンパスの顔づくり ③各機能を円滑につなぐネットワーク形成 ②施設内外のゆとり確保 ④西側に向けた顔づくり</p> <p>「附属病院増築整備計画」策定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>竣工年</th> <th>耐用年</th> <th>面積</th> <th>診療科</th> <th colspan="5">病床数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病棟・中央診療棟</td> <td>S58</td> <td>H34</td> <td>50762㎡</td> <td rowspan="3">25科</td> <td>1床室：74床</td> <td>4床室：28床</td> <td>8床室：8床</td> <td>許可</td> </tr> <tr> <td>外来診療棟</td> <td>S60</td> <td>H36</td> <td>14,328㎡</td> <td>2床室：126床</td> <td>5床室：225床</td> <td>10床室：10床</td> <td>病床</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>65,090㎡</td> <td>3床室：30床</td> <td>6床室：426床</td> <td>11床室：11床</td> <td>938床</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜整備の方向性＞</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○病室の4床化、個室化など、患者の療養環境を確保 ○救急医療の中心的な役割を果たすため、患者受入体制を強化 ○がん医療に関する総合診療体制の確立 ○リハビリテーション医療の診断・治療機能の充実 ○札幌大に勤務する医師の確保(教育・研究機能の充実) </td> <td> <p>喫緊の課題に対応するため附属病院の増築を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先進医療への対応 ・医師派遣機能の充実等 ・現施設→数十年の使用可 </td> </tr> </table> <p>＜建設場所の変更＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西16丁目市道地下に公共下水道管が埋設されており、地下通路での接続が困難であること ○渡り廊下による現病院との接続が限定され、病院機能の一体化や利用者に配慮した動線の確保が困難であること ○西17丁目市道(緑道)取得見込となったこと →上述の要因を踏まえ、建設場所を衛生学院敷地→「北病棟西側」に変更 	施設名	竣工年	耐用年	面積	診療科	病床数					病棟・中央診療棟	S58	H34	50762㎡	25科	1床室：74床	4床室：28床	8床室：8床	許可	外来診療棟	S60	H36	14,328㎡	2床室：126床	5床室：225床	10床室：10床	病床	計			65,090㎡	3床室：30床	6床室：426床	11床室：11床	938床	<ul style="list-style-type: none"> ○病室の4床化、個室化など、患者の療養環境を確保 ○救急医療の中心的な役割を果たすため、患者受入体制を強化 ○がん医療に関する総合診療体制の確立 ○リハビリテーション医療の診断・治療機能の充実 ○札幌大に勤務する医師の確保(教育・研究機能の充実) 	<p>喫緊の課題に対応するため附属病院の増築を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先進医療への対応 ・医師派遣機能の充実等 ・現施設→数十年の使用可
施設名	竣工年	耐用年	面積	診療科	病床数																																	
病棟・中央診療棟	S58	H34	50762㎡	25科	1床室：74床	4床室：28床	8床室：8床	許可																														
外来診療棟	S60	H36	14,328㎡		2床室：126床	5床室：225床	10床室：10床	病床																														
計			65,090㎡		3床室：30床	6床室：426床	11床室：11床	938床																														
<ul style="list-style-type: none"> ○病室の4床化、個室化など、患者の療養環境を確保 ○救急医療の中心的な役割を果たすため、患者受入体制を強化 ○がん医療に関する総合診療体制の確立 ○リハビリテーション医療の診断・治療機能の充実 ○札幌大に勤務する医師の確保(教育・研究機能の充実) 	<p>喫緊の課題に対応するため附属病院の増築を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先進医療への対応 ・医師派遣機能の充実等 ・現施設→数十年の使用可 																																					

年度	検討内容	
H25	西19丁目街区施設（体育館、リハビリテーション実習施設及び保育所）工事開始 附属病院増築棟基本設計 教育研究施設Ⅰ実施設計 教育研究施設Ⅲ基本設計	
H26	西19丁目街区施設（体育館、リハビリテーション実習施設及び保育所）完成（H26.11） 教育研究施設Ⅰ工事開始（H29.12完成予定） 附属病院増築棟実施設計 教育研究施設Ⅲ実施設計 西17丁目市道（緑道）取得（※H26.4.1札幌市から道へ譲渡）	
	現状と課題	市道取得後の利用検討
	○西17市道によって大学と病院が分断 ○大学と病院間を学生等が頻繁に往来 ○病院駐車場の狭隘化→路上待ちの恒常化	○西17丁目街区に駐車場整備 →大学・駐車場・病院の連結通路バリアフリー化 ○歩行者専用道路としての機能は継続
H27	附属病院増築棟工事開始（H30.3完成予定） 教育研究施設Ⅲ工事開始（H29.3完成予定） 西19丁目街区施設外構（園庭など）完成	

施設整備構想 全体スケジュール

区分/年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
建設 工事	大学	体育館	教研施設Ⅰ			教研施設Ⅱ			
	病院			教研施設Ⅲ	大学管理施設				
解体工事			体育館 保育所		増築棟		南北棟 F1		東棟 本部棟

	期間		事業費（単位：億円）			
	設計等	工事[予定]	当初計画	変更後計画	契約実績等	備考
大学施設			186	245	124	
教育研究施設Ⅰ	⊕ H24 ⊕ H25	H26.10~H29.12	80	100	92	
教育研究施設Ⅱ	⊕ H28 ⊕ H29	H30.12~H32.7	47	46	—	
教育研究施設Ⅲ	⊕ H25 ⊕ H26	H27.9~H29.3	17	20	17	
管理棟・動物実験	⊕ H28 ⊕ H29	H30.12~H32.7	15	48	—	
体育館・リハ施設	⊕ H24 ⊕ H24	[H26.11 完成]	15	15	15	
外構工事	19丁目街区 ⊕ — ⊕ H24	H26.6~H26.12 H27.8~H27.12	4	4	—	
	17丁目街区 ⊕ — ⊕ H29	H32.5~H33.3				
解体工事	体育館等 教研Ⅰと一体	H26.12~H27.5	8	9	—	
	北・南棟 ⊕ H29	H30.7~H30.12				
	東棟等 ⊕ H31	H32.9~H33.1				
既存棟	保健医療学部棟 ⊕ [教研Ⅲ] ⊕ H28	H29.4~H30.3	—	3	—	
	基礎棟 ⊕ H32	H33~	—	—	—	管理棟及び外構に併せ検討
附属病院			63	87	76	
増築棟	⊕ H25 ⊕ H26	H27.7~H28.3 H27.12~H30.3	63	87	76	
	既存棟 ⊕ H29	H30~	—	—	—	H28 改修計画策定予定
臨床棟	⊕ H32	H33~	—	—	—	既存棟改修計画等を踏まえ検討

⊕＝基本設計 ⊙＝実施設計

※「変更後計画」は平成 28 年度予算時

※「契約実績等」は平成 28 年 2 月末現在

入学定員の推移

年	医学部	保健医療学部			大 学 院						
	医学科	看護学科	理学療法 学 科	作業療法 学 科	医学研究科		保健医療学研究科				
					修士課程	博士課程	看護学		理学・作業療法学		
							博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
昭和25年	40人										
昭和28年	60人										
昭和31年	↓					25人					
昭和38年	80人					28人					
昭和40年	↓					30人					
昭和50年	100人					↓					
昭和57年						31人					
昭和58年		(50人)	(20人)	(20人)							
平成5年		50人	20人	20人							
平成10年							12人			12人	
平成12年							↓				6人
平成13年						50人					
平成18年	↓								2人		
平成20年	105人	↓	↓	↓	10人	↓	↓	↓	↓	↓	↓
平成21年～	110人	50人	20人	20人	10人	50人	12人	2人	12人	6人	

() は、衛生短期大学の入学定員

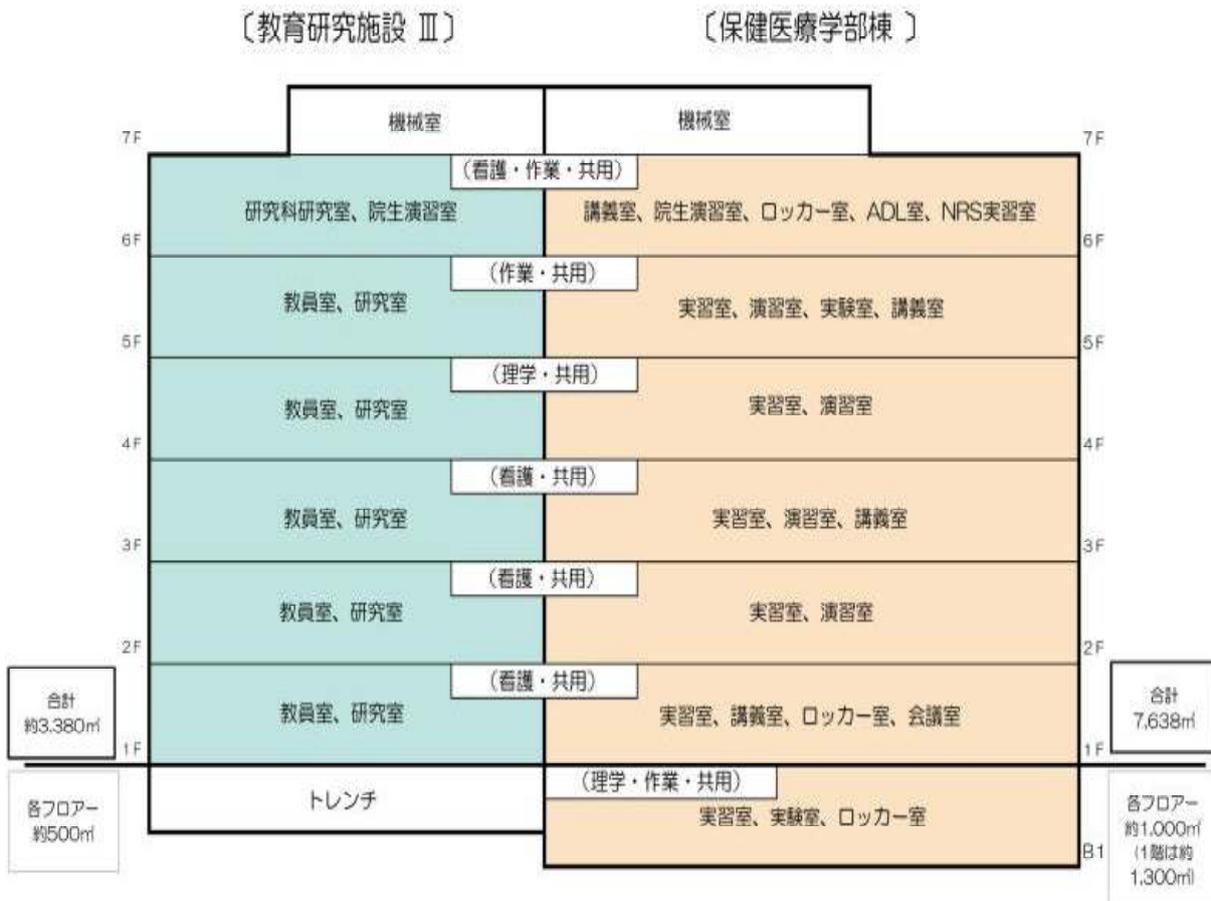
3 保健医療学部棟の改修について

(1) 保健医療学部棟の現況

名 称	保健医療学部棟
所 在 地	札幌市中央区南2条西17丁目291番地86
敷地面積	7,311.22㎡
建築面積	1,342.66㎡
延床面積	7,638.26㎡
規模／構造	屋根塔屋2階地下1階付6階建 鉄骨鉄筋コンクリート
竣工年	昭和57年

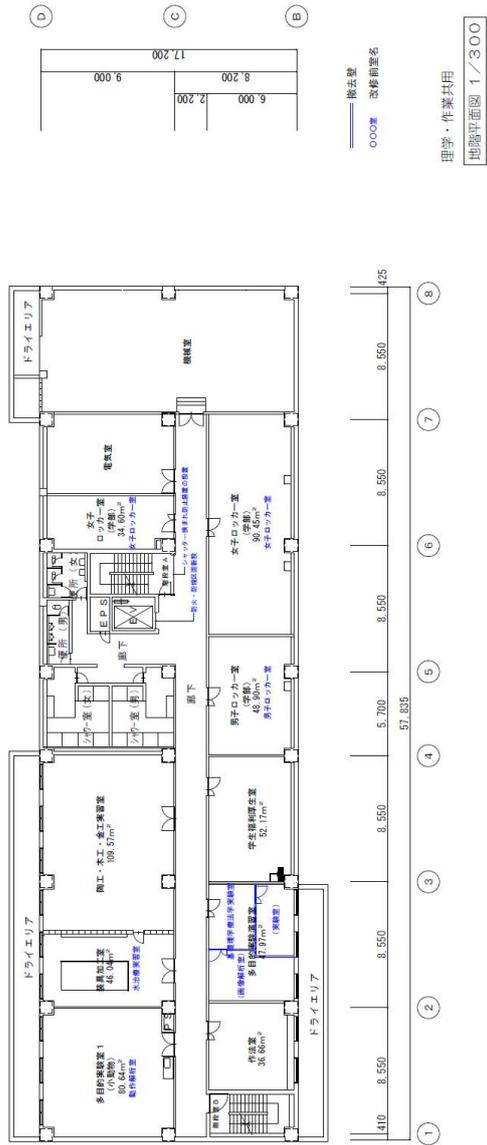
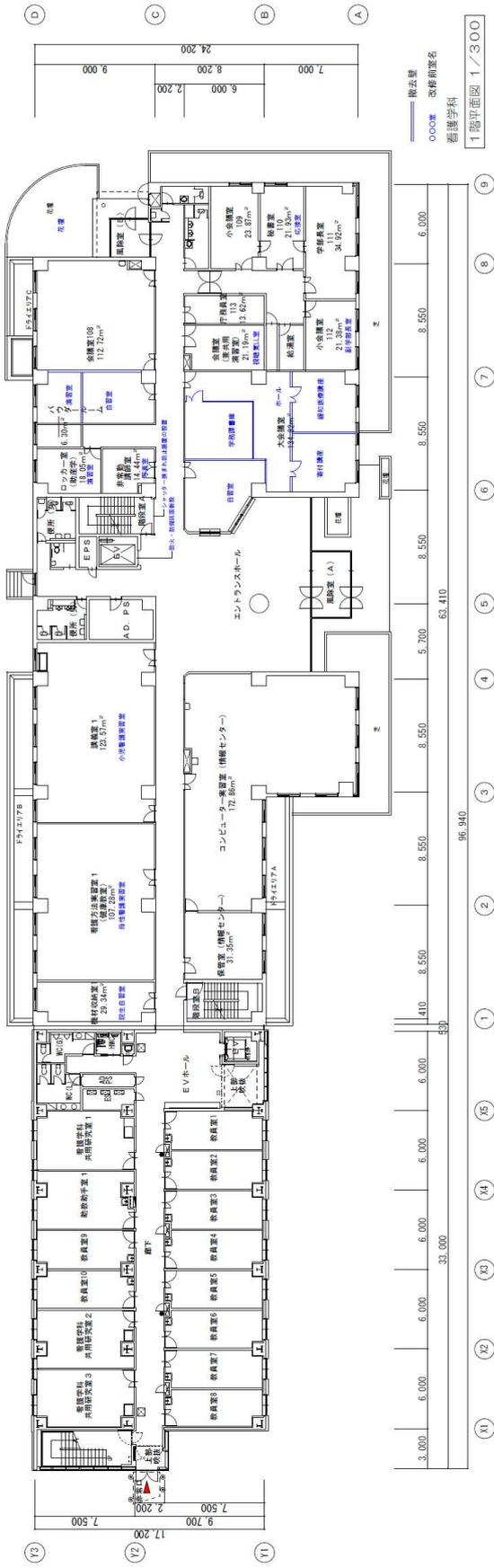
(2) 改修の基本方針

- 定員増に伴い、実習室、演習室など各室の必要面積を確保する。
- 教育研究施設Ⅲとの一体的使用・相互連携を勘案した整備内容とする。
- 整備改修に当たっては、増築棟となる教育研究施設Ⅲの耐用年数を勘案し、施設・設備の長寿命化やバリアフリー化に配慮する。
- 将来的な動線を踏まえた効果的・効率的な室配置を検討する。



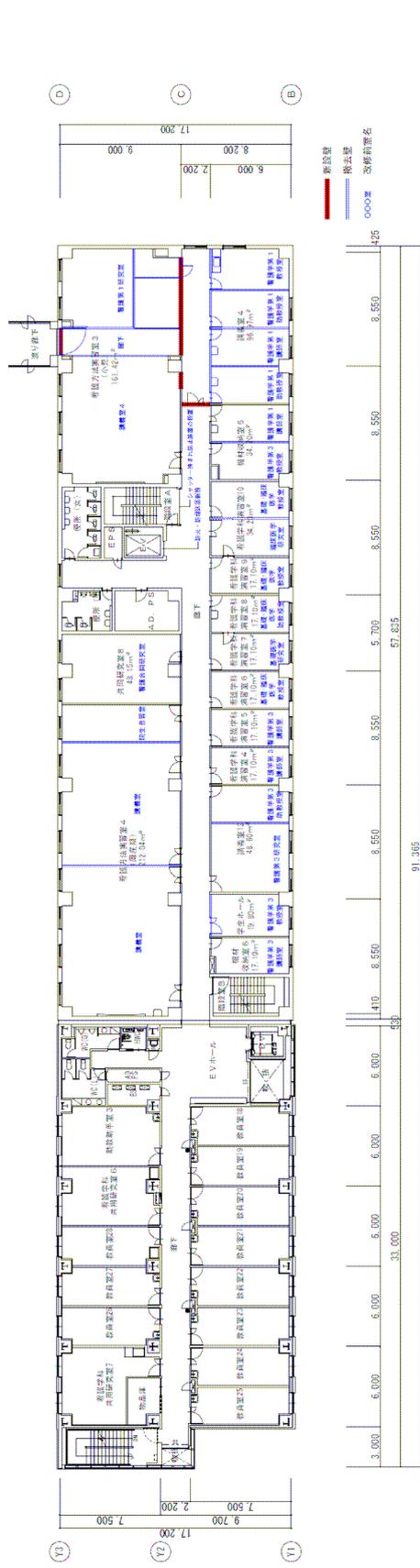
(3) 主な改修の内容

- 学部定員増（270人→360人）を踏まえた各室の新設・拡充
 - ・ 講義室、会議室、演習室など
- 施設整備時（S58年）以降に新設された大学院、助産学専攻科の設置に伴う各室の新設・拡充
 - ・ 院生演習室、看護方法実習室（助産学専攻科と共同利用）など
- 施設整備時（S58年）に未設置又は以後の学術的発展により機能不十分となった各室の新設・拡充
 - ・ 理学療法学科、作業療法学科の各実験室及び実習室など

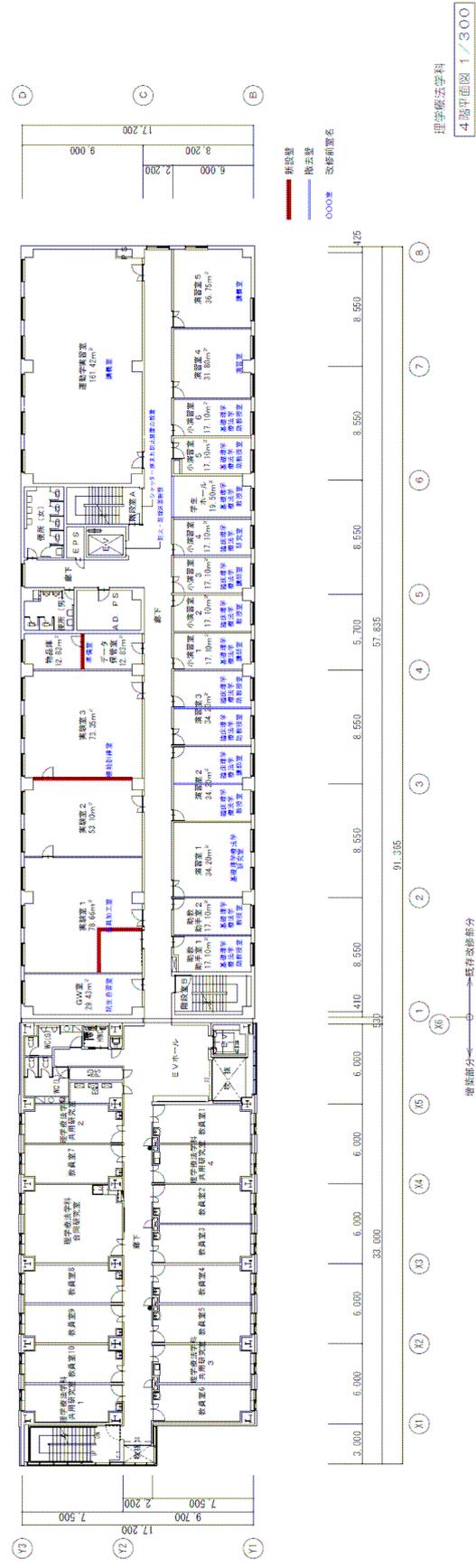


理字・作業共用
 1階平面図 1/300

平面計画 (地階, 1階平面図)



平面計画 (2, 3階平面図)



平面計画 (4, 5階平面図)

(4) 現行法令適合のための改修

- エレベーター昇降路の防火区画における遮煙性能を持った防火設備を設置する。
- シックハウスの原因となる化学物質の室内濃度を下げするため、24時間換気設備を設置する。
- 防火シャッター等の防火設備に挟まれ、重大な危害を受けないようにするため、閉鎖作動時の危害防止機構等を設置する。
- 建物にかかる荷重を低減する（屋上押さえコンクリートの撤去等）。

関連法規チェック

・建物名称	札幌医科大学保健医療学部棟
・建築主	北海道
・建築場所	札幌市中央区南1条西17丁目291-85他
・施設用途	学校
・都市計画	都市計画区域内、市街化区域
・用途地域	商業地域・近隣商業地域（計画地は近隣商業地域）
・防火地域	準防火地域
・法22条地域	なし
・日影規制	あり 2.5時間・4時間
・斜率制限	道路斜率制限 1.5A 隣地斜率制限 31.0mから2.5/1
・指定地区	45m高度地区、景観計画区域、第二種小売店舗地区

項目		法規	内容
主要用途			学校（大学）
工事種別			増築
延床面積			既存面積：7,638㎡+増築面積：3,380㎡=11,018㎡
容積対象面積			11,018㎡
建築面積			
盛土			なし
最高高さ		令2-2	
軒高		令2	1階4.2m 基準階4.0m
階数		令2	7階
構造			鉄骨鉄筋コンクリート造
形態制限	絶対高さ	法55-1	45m高度地区
	北側斜率	法56-1-3	なし
	道路斜率	法56-1-1	道路斜率制限 1.5A
	隣地斜率	法56-1-2	隣地斜率制限 31.0mから2.5/1
	日影規制	法56-2	2.5時間・4時間
構造制限	大規模建築物	法21	鉄骨鉄筋コンクリート造（木造等の大規模建築物の制限なし）
	特殊建築物	法27、別表1	3号特建（学校）
	耐火建築物		耐火建築物
	主要構造部	法2-5	柱、梁、壁、床、屋根、階段
	柱の防火被覆	令70	—
	耐火性能時間	令107	—
	屋根の恐れのある開口部	法2-6	隣地境界線又は道路・建物中心線から、1階-3m以下、2階以上-5m以下の部分
	防火壁	法26	なし
	防火区画	令112-1	面積区画：1500㎡ごと 堅穴区画：あり 既存保健医療学部棟のEVシャフトは現行法規及により防火設備（遮煙）必要
	内装制限	法35の2 令128の4 令129	令128の3の2の無窓の居室は制限あり
一般規定	排煙設備	令126の2	なし
	採光	法-28 令19	教室の1/10（その他の学校）
	換気	法-28 令20-2	居室の1/20以上（機械換気した部屋は除く）
	天井高さ	令21	2.1m以上（居室）
	シックハウス	法-28の2	適用 既存保健医療学部棟は現行法規及により教育研究施設Ⅲと換気経路が一体となる部分の換気設備の適合が必要

・基準建蔽率	80% +10% (角地適用)
・基準容積率	300%
・敷地面積	21422.33㎡
・前面道路幅員	北側道路25.0m 東側道路20.0m 南側道路20.0m 西側道路20.0m
・敷地内建築物	既存保健医療学部棟に増築 (法86の7-3: 部分適用の取扱い)

項目		法規	内容
避難規定	廊下の幅	令119	中廊下1.6m、片廊下1.2m以上
	階段寸法	令23~27	幅員1.2m以上、蹴上20cm以下、踏面24cm以上
	直通階段にいたる 歩行距離	令120	主要構造部耐火構造50m以下(60m)
	2以上の 直通階段	令121-1	6階以上原則として必要
	避難階段	令122	5階以上14階以下または地下2階に通ずるもの
	屋外への出口	令125	—
	敷地内の避難上・ 防火上必要な通路	令127	—
避難設備等 (基準法)	非常用照明設備	令126の4	適用外(学校)
	非常用出入口	令126の6	高さ31m以下にある3階以上の各階
	避雷設備	令129-14	高さ20mを超える部分に設置
	非常用の昇降機	令129-13-2	なし
消防用設備 (消防法)	誘導灯	令26-1	札幌市条例より設置
	自動火災報知器	令21-1	設置(500㎡以上)
	非常警報	令24-3	収容人員(階)50>M≥20で必要(非常ベル、非常放送)
	消防機関へ通報 する火災報知設備	令23-1	設置(1000㎡以上)
	避難器具	令25	設置(既存保健医療学部棟に救助袋)
	消火器具	令10	設置(300㎡以上)
	屋内消火栓	令11	設置(一般1400㎡、2100㎡以上 4階以上300㎡、450㎡)
	動力消防ポンプ設備		
	屋外消火栓	令19	設置(耐火 1階+2階 9000㎡以上)※街区全体で適用
	連結送水管	令29	設置
	スプリンクラー	令12	なし
	消防用水		なし
	無窓階の判定		有窓
事前協議	確認申請	基準法	
	バリアフリー新法		
	景観	北海道条例	
	福祉のまちづくり条例	条例	
	省エネルギー計算書		
	工場立地法		
	電波障害		
	中高層	条例	
	保健所		
	水道局		
	消防法	基準法・消防法	

●法86条の7に関する審査の既存部分チェックリスト

既存部分は耐久性等関係規定に適合		
令36条	構造方法に関する技術的基準	法改正なし
令36条の2	地階を除く階数が四以上である鉄骨造の建築物等に準ずる	該当しない
令36条の3	構造設計の原則 柱梁床壁を有効に配置し、自重、積載荷重、積雪、風圧、土圧、水圧、地震その他振動衝撃に対し構造耐力上安全を確認	法改正あり ・垂直積雪量が現設計時100cmから140cmに改正 ・小梁のせいがスパンの1/10以上に改正 →教研Ⅰの基本設計技術資料により検討済 検討方法の可否について行政に確認が必要
令37条	構造部材の耐久	法改正なし
令38条第1、5、6項	基礎	法改正なし
令39条第1項	屋根ふき材	該当しない
令41条	木材	該当しない
令49条	外壁内部等の防腐処置等	該当しない
令70条	柱の防火被覆	法改正なし
令72条	コンクリートの材料	法改正なし
令74条	コンクリートの強度	法改正なし
令75条	コンクリートの養生	該当しない
令76条	型枠及び支柱の除去	該当しない
令79条の3	鉄骨のかぶり厚さ	該当しない
令80条の2	構造方法に関する補則	該当しない
増改築部分は仕様規定に適合		今後設計を行い、適合した建築物とする
独立部分について、耐震診断基準または新耐震基準に適合		新耐震基準に適合し、S56/8/31に計画通知により適合
建物全体が、地震時を除き、荷重、外力に対して許容応力度計算により安全であることを確認		法改正あり ・垂直積雪量が現設計時100cmから140cmに改正 ・小梁のせいがスパンの1/10以上に改正 →教研Ⅰの基本設計技術資料により検討済 検討方法の可否について行政に確認が必要
屋根ふき材等はS46年告示第109号に適合		屋根ふき材はない

(5) 概算事業費 約 3.4 億円

【内訳】 実施設計委託費 約 0.2 億円
改修工事費 約 3.2 億円

※ なお、移転費・初度調弁費は、別途検討とする。

改修計画の具体化に向けては、厳しい道の財政状況を踏まえ、適宜精査を行うとともに、状況の変化に柔軟に対応できるよう、必要に応じて変更あるいは修正を加えていくこととする。

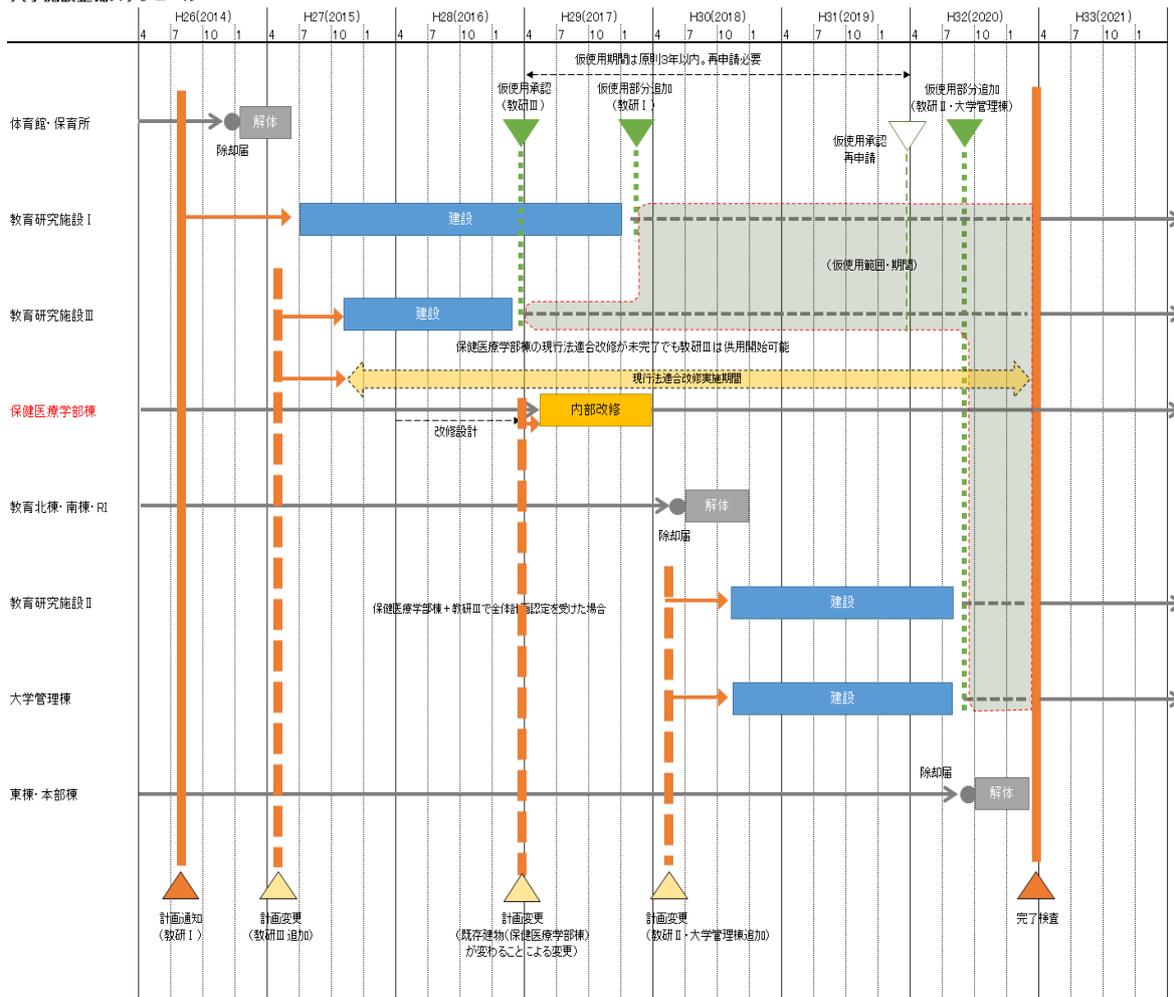
4 改修の進め方及びスケジュール

(1) 進め方

授業や学内行事への影響を最小限に抑えるため、夏季・冬季・春季休業期間を中心にフロア毎に改修工事を行う。

(2) スケジュール

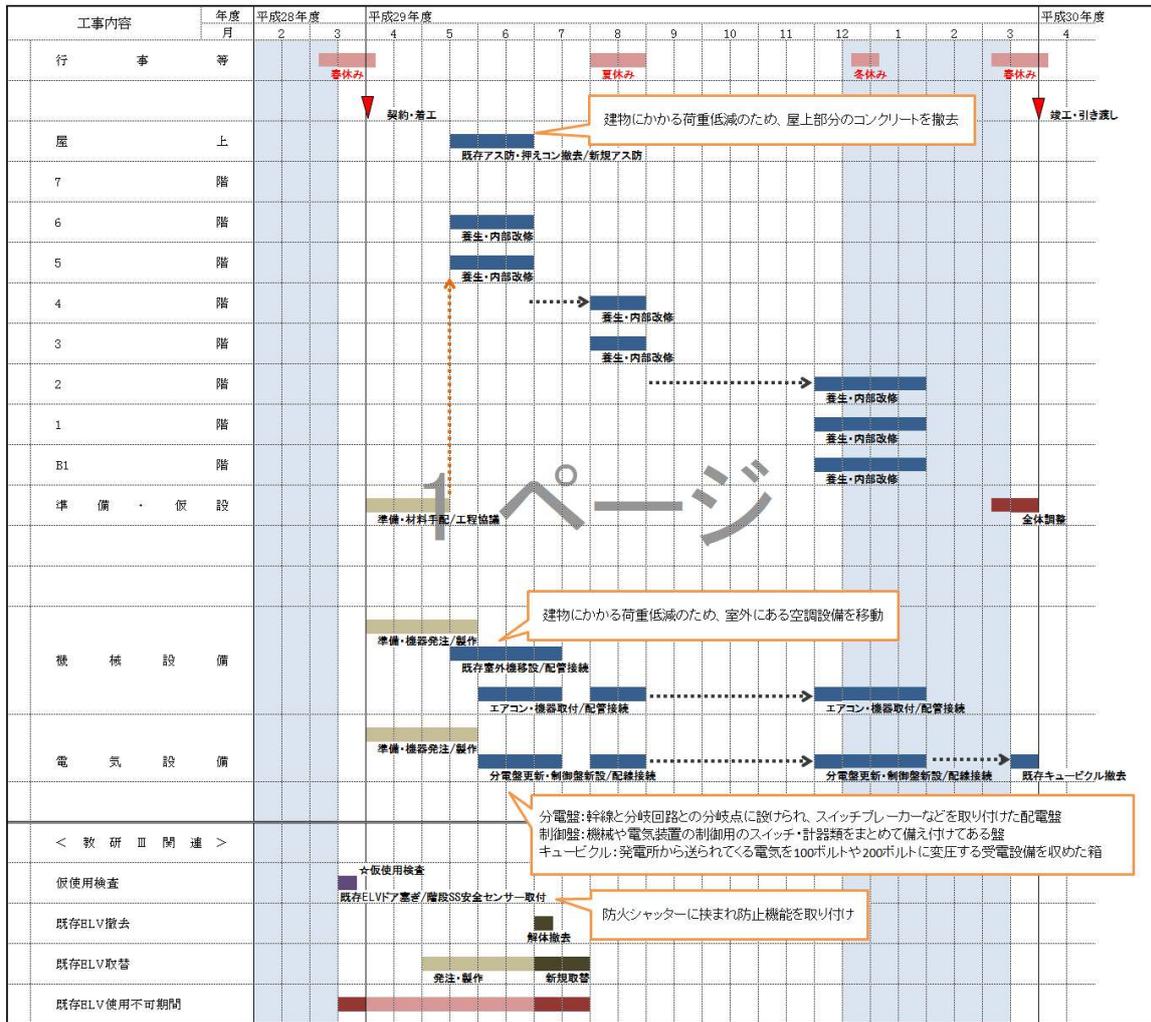
大学施設整備スケジュール



契約の状況

- ① 教育研究施設Ⅰ（解体工事を除く）
（工期：平成27年6月19日～平成29年12月25日）
- ② 教育研究施設Ⅲ
（工期：平成27年9月8日～平成29年3月24日）
- ③ 附属病院地下改修
（工期：平成27年7月7日～平成28年3月25日）
- ④ 附属病院増築
（工期：平成27年12月18日～平成30年3月23日）

保健医療学部棟改修工程表(想定)



※ 工程は現時点における想定であり、今後、実施設計において授業や学内行事との調整を行うため、変更となる場合あり

5 キャンパス整備に関する現状と課題

(1) 病院と大学の連絡通路

本学のキャンパスは、西16丁目街区に附属病院、西17丁目街区に大学施設が配置され西17丁目緑道によって東西に分断されている。

西17丁目緑道のこれまでの経緯

年月	内容
大正10年 4月	市道に認定(公衆用道路)
昭和56年 2月	自転車・歩行者専用道路へ用途変更
昭和61年 11月	道路の緑地化工事完成
平成26年 4月	札幌市から北海道に譲渡
	北海道から無償貸与

西17丁目緑道は、附属病院での臨床実習、大学施設での講義、病院や臨床医学研究棟から大学研究室への病理組織・細胞の搬入など、学生や教員が頻繁に往来しているが、雨天時や降雪時、特に冬季の凍結した路面の通行には特別に注意を払う必要があるとともに、往来の都度、防寒着の着用や外履きへの履き替えなど、学生・教員にとって良好な教育研究環境とはいえない状況にある。

また、西17丁目街区における駐車場整備に伴う患者等の動線に配慮が必要である。

(2) 附属病院駐車場の狭隘化解消

附属病院外来患者用の駐車場（約100台分）が狭隘化し、道路上で駐車場への入場を待つ車列が日常的に発生している。

附属病院駐車場の狭隘化の解消を図るため、大学の施設整備に併せて患者の利便性の観点から隣接する西17丁目街区に駐車場を拡充整備し、駐車場への入場待ちの軽減に伴う患者等の利便性の向上や交通安全の確保を図る。

駐車場は、施設整備最終の外構設計において大学、病院全体の土地利用計画及び工事費の負担軽減のための駐車料金の賦課徴収や民間資金の活用などを含めて、検討する。

(3) 病院の整備について

平成25年2月に取りまとめた「札幌医科大学附属病院増築整備計画」に基づき、現状1室6床が主体となっている病室について、個室及び4床室を基本として療養環境の充実を図るとともに、診療看護の環境改善や外来化学療法室の拡充を図るため、増築棟を建設中である。

既存棟については、増築棟が完成した後、平成30年度から病床の4床化、外来診療部門の拡充、救命救急センターの充実など、道民の皆様へ安全でより質の高い医療を提供する上で重要となる施設の整備を行うこととしており、今後策定する改修計画においてその具体化について検討を深める必要がある。

(4) 助産学専攻科棟などについて

助産学専攻科運営のため、道から借り受けている助産学専攻科棟（旧道立衛生学院）については、看護キャリア支援センターの充実や患者用駐車場の狭隘問題、病院の建替用地確保などの課題解決に向けて、今後、検討を深める必要がある。

また、新琴似グラウンドなどの附属施設について、将来的なあり方や利活用について検討を深める必要がある。

【参考】主要施設の現況

1 建物

区分	施設名	竣工年	耐用年	構造	階	延床面積 (㎡)
西17丁目 街区	教育南棟	S43	H27	R C	4階	1,741.25
	東棟	S45	H29	R C	5階	7,938.43
	教育北棟	S45	H29	R C	4階	2,547.79
	本部棟	S46	H30	R C	5階	1,925.36
	R Iセンター・がん研究所	S49	H33	R C	5階	2,828.76
	保健医療学部棟	S57	H41	SRC	7階	7,638.26
	基礎医学研究棟	H11	H58	SRC	15階	20,553.53
西18丁目 街区	国際医学交流センター	S35	H19	R C	2階	617.86
	交流会館	H 8	H55	R C	5階	1,906.74
	記念ホール	H14	H61	R C	3階	733.05
西19丁目 街区	ファミリーハウス	H14	H48	軽量S	2階	552.70
	細胞調製施設	H21	H55	S	1階	364.49
	体育館・リハビリテーション 実習施設及び保育所	H26	H73	SRC	2階	3,982.49
西16丁目 街区	病棟・中央診療棟	S58	H34	SRC	12階	50,762.00
	外来棟	S60	H36	SRC	4階	14,328.00
	臨床教育研究棟	S61	H45	SRC	14階	14,790.33
西16丁目	旧第1看護師宿舎	S35	H19	R C	4階	1,358.49
	旧第2看護師宿舎	S49	H33	R C	8階	1,488.43
西15丁目	助産学専攻科棟 (旧衛生学院)	S36	H20	R C	4階	6,627.56

2 土地

名称	所在地	面積 (㎡)
西15丁目駐車場	札幌市中央区南2条西15丁目291-190	481.03
新琴似グラウンド	札幌市北区新琴似4条9丁目203-2, 207-3 札幌市北区新琴似4条10丁目207-1, 209-2	36,407.44
駐車場 (旧テニスコート)	札幌市中央区南1条西18丁目291-162	1,469.00